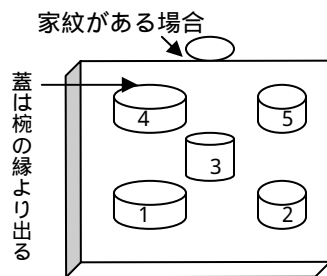


法事について（五供物）・・・霊膳、お茶湯、ローソク、花、線香

霊膳のセットについて

1. お膳の向き...故人が食べる向きに置く
2. 中身



ご飯：蓋が一番小さいもの
お汁：ねぎ、にんにく、ニラ、玉葱等匂いのあるものは避ける
蓋はあう物を使えばよい
つぼ（一番深いもの）：煮豆
大ひら：煮しめ
高野豆腐、にんじん、椎茸など3種類位。精進なのでかまぼこは使わない
小ひら：酢の物、和え物

* 供物は仏様を飾る物と仏様に直接あげる物に分かれます。
霊膳は仏様に差し上げますので箸は仏様側に。花や果物はお参りする人が綺麗に見えるように正面に向けます。また、お膳の紋も正面から見えるようにします。

3. 膳は葬式の場合一膳、49日に二膳の場合、ひとつは本尊様ひとつは故人へのお供えになります。まとめて一膳でも良い。困ったときは菩提寺にお聞きしましょう。また、年長者の言われるとおりに行っても良い。

お供えの果物、お菓子について

果物：正面向かって左側．お菓子：正面向かって右側

* 施餓鬼法事について

お供え

乾菜...山海のもの（例 ひじき、あらめ、高野豆腐）

生菜...野菜

お茶湯について...お茶が正面向かって左、甘い方が右

蜂蜜や砂糖を溶かしたお湯（蜜湯）を言い、甘いお供えをすることは接待になる。

今、生きているがごとくに仏様にお供えする。

お湯のみの絵柄はきちんと前を向いていた方が良い。

<お茶> 湯飲みにお茶の葉を直接入れるのは中国方式。お茶は番茶に決まったことはなく煎茶でもよい。永平寺ではお抹茶を入れている。

供具について

お釈迦様が亡くなられる直前茹でる間も無かったから、葬式の団子は茹でない。法事にお供えする団子は茹でる。

線香の立て方について

出来るだけ香りの良い（伽羅、沈香など）線香を一本まっすぐに立てる。

法要で沢山立てる時には、後の人が立てやすいように奥から立てる。

* 焼香のしかた

仏様をよく見て、お位牌を見て香を念じる。基本は1回、それに添えて2回でも良い。

会葬の場合、多数の時は1回で良い。

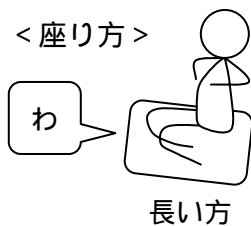
接待について

お茶をお盆に乗せたまま、お出ししない方が良い。

お盆を一旦置いて、茶托にのせたお茶をお出しする。おかわりをお聞きする。

* 座布団は絵柄を揃えて、向きを同じようにして敷く。縫い目のない面を相手に向ける。

<座り方>



ポイント

座布団をしまう時も方向を同じようにしておきましょう。ちょっとの心づかい。

仕出しパック料理は、法要後の本膳でお供えする。盃はつけなくて良い。